

講演抄録（福井健太講師）

演題 『新しい審美補綴治療を用いた審美回復』

岐阜県歯科技工士会東濃支部

福井 健太(デジタルクリエイション勤務)

審美回復をしても補綴後の歯肉短縮によりブラックマージンが目立ち、折角修復した審美性も損ねてしまう場合がある。そこでイタリアのDr イグナチオ・ロイは、この問題を解決するために試行錯誤をし、独特の支台歯形成を施し、数ヶ月で厚みのある歯肉状態を長く維持できるBOPTテクニックを開発しました。このテクニックは天然歯だけでなく、インプラント治療にも応用することができ、そのために開発されたインプラント製品も有ります。

今回は、このテクニックを用いた症例をいくつか紹介し、どの様に新しい審美補綴治療と向き合い製作しているのか述べていきます。

演題 「わたしの働き方改革」

演者 山田雅子(岐阜県歯科技工士会)

月刊歯科技工 2020 年 10 月号に掲載された特別解説『「歯科技工業の多様な業務モデルに関する研究」報告』では、歯科技工業の労働実態の調査が多角的になされている。また、労働環境の改善を目指すための提言がなされている。

歯科技工士を目指す人を増やし、また離職率を下げるためにも、働き方改革が必要である。今回は「見える化」と「共有」をキーワードに実践してみた、小さいけれど今日からできる改革を紹介したい。